

字が汚く遅い人の立ち回り

こんにちは九頭です。

質問をいただきました

「私は消費税等の理論に 60 分はかかるのですが
本試験はどのように時間配分されていきましたか？
また字が遅く汚い人向けのやり方など
もしございましたらお教え頂けませんでしょうか？」

という質問をいただきましたので
今回は「**字が遅く汚い方向けの答案の作り方**」を紹介します。

字が遅い方向けですが、悩んでいない方にも役に立つのではないかと考えています。

僕はどうだったか？

全ての合格科目は理論 60 分以上、酷いときには 70 分以上費やして計算問題でミスばかりして落ちたこともありましたが（理論で時間を使いすぎて計算の問題をじっくり読んでいられなかったことが原因です）

原因はあまりにも遅すぎたことでした

僕の字を書くスピードは致命的で

税理士試験とは無縁の友達が普通に書いている字の方が速く書く練習をしている自分よりも速くてキレイだったのです。

しかも、その友達のスปีドもおそらく世間的には普通位の速度だと思います。

なのでかなり落ち込みました。

今回の内容は

そんな自分だからこそお伝えできる内容ではないかと考えています。

まずは本当に速くなる余地は無いか？を検討する

書くのが遅い方向け

というのが本コンテンツの内容ですが、理想はあくまでも速く書けることです。

なので

手の動くスピードが他の人と比べて自分はどうか？

をまずは検討すべきだと思いますし、まだ速くなる余地があるのなら練習をすべきです。

僕の場合は何年かかっても速くなりませんでした

なので、これ以上続けることは得策ではないと感じたので手のスピードを上げることは諦めたのです。

正直な話、中学の時、高校の時も人と比べて明らかに遅かったのも諦めた要因の一つになっています

そして

手の止まっている時間は長くないか？

理論を完璧に覚えられずに手が止まってないか？

ということも確認しましょう。

覚えられていないなら理論をきちんと覚えればそれだけでスピードは上がります

このように

- ・他の人と動かすスピードを比較してみてどうか？
- ・理論がきちんと覚えられていなくて手が止まっていないか？

などを確認して

まだスピードを上げられないか？ということを確認しましょう。

まずはこれらを行ったらうで次の「字が遅くて汚いときの対策」をやりましょう。

字が遅くて汚いときの対策

字が汚くて遅いときの対策として私が最も重要視していたのは

大事な部分をキレイに書く

ことです。

丸暗記を目指していると忘れがちだけど、理論の文章は絶対に間違えてはならない部分とそうでない部分で構成されている

大事な部分ってなにか？

期限、結論、数字（理論の数字、計算の数字両方）などのことを言います

期限や結論を実務で間違えたらどうなるか？を考えてみてください

期限が2ヶ月以内のものを

「3ヶ月以内ですよ」

と伝えてしまい、そのお客様が期限後に提出してしまったらどうでしょうか？

お客様に迷惑をかけて大問題になりますよね？

実務では絶対に合ってはならないことです。

なので、そういった部分は大事な部分になってきます

なので、期限や結論といった大事な所は採点でじっくり見られる可能性が高いと私は考えているのです。

ちょっと話が変わりますが

税理士試験の採点期間ってどのくらいあると思いますか？

結果発表が4か月後なので4か月あると思っていないですか？

私は4か月も採点の期間はないと思っています。

試験終了から通知が自宅に届くまでの流れを想像してみましょう。

おそらくこんな感じになると思います

試験終了→答案回収→各試験委員に渡す→採点する→採点された答案を回収する→結果を集計する→通知や合格証書を作る→受験者の自宅に発送する

などの一連の作業が約4ヶ月の間に行われています。

そう考えると実質採点の期間は長くても3ヶ月程度ではないでしょうか？

昨年2019年の消費税は約7500人でした

となると、90日間で採点するとなると1日で83人採点しないといけません

1日8時間労働なら一人5～6分で採点しないといけません

実際は試験委員以外の他の採点者もいると思いますが、それでも短期間でかなりの量の答案を採点する必要が出てくると考えられます

となると、結局一人一人の答案をじっくり見ることは出来ないため、重要なポイントを見ながら採点されることが予想されるのです

それが先ほど紹介した期限や結論といった部分なのです

なので、字が汚なかった僕は大事な部分を丁寧に書く意識を持っていました。

もう一つ大事な部分は

10%の中に入るのではなく5%の中に入る意識を持つ

ということです

試験では

人より遅い＝解答量が減るのでどうしても不利に働きます。

正直な話、合格した年の試験も試験前には

「量の多い問題は勘弁してほしいな」

とっていました。

解答量が減ると上位10%の実力があっても点数は上位15%

ということが起きても不思議ではありません。

なので、書くスピードが遅いという弱点は他の人よりも高い実力を持つことで補う意識を持ちましょう

僕の体験談ですが

普段の答練が簡単で問題量が多いと順位が落ちていました

反対に難しく問題量が少ないと順位が上がっていました

スピードの無さがマイナスに働いていたという動かぬ証拠です

しかし、遅いという弱点があったからこそ他の人よりも高い実力と言う武器を手に入れました

弱点を嘆いていても合格は出来ないなので弱点を認めた上で他の受験生よりも高い実力を身に付けることに励んだ結果です。

なので、上位10%よりも上に行く意識が大事、ということで

「5%の中に入る意識を持つことが大事」

ということをお伝えしたいのです。

まとめ

- ・まだスピードが上がる余地が無いか？の確認（他の人と比べて手の動くスピードは？長時間手が止まってないか？）
- ・採点の仕組上、大事な所ほど丁寧に解答する（期限、結論、数字）
- ・遅いなら他の受験生より高い実力を身に付ける意識を持つ

というのが今回の内容になります。

最後までお読みいただきありがとうございました。

今回の内容に感想をいただけたならプレゼントをいたします。

今回のプレゼントは

「本試験直前の過去問の活かし方」

の音声又は書き起こしを差し上げます

感想の送り方はこちらのツイートを引用リツイートする形でお願いいたします。

<https://twitter.com/zeirishikuzu/status/1327937278132379650>

ツイッターアカウントをお持ちでない方は公式LINEの方に直接メッセージを送っていただいても問題ありません

音声版と書き起こし版の両方を差し上げます。